青年期における歯と口の健康サポーター養成事業評価書

一般社団法人大阪府歯科医師会

目次

１．事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ.１
１）事業目的
２）対象
３）実施期間
４）内容

２．事業結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ.２
２．１　事業の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ.２
１）「歯と口の健康サポーター養成研修会資料」「歯と口の健康サポーターの手引き」「学生に対する普及啓発用媒体」の作成・・・・・・ Ｐ.２
２）歯と口の健康リーダー養成研修会の実施・・・・・・・・・・・・Ｐ.３
３）歯と口の健康リーダー連絡調整会議の実施・・・・・・・・・・・Ｐ.３
４）歯と口の健康リーダーによる学校への周知広報と実態調査・・・Ｐ.４
（１）周知広報
（２）実態調査
５）歯と口の健康サポーター養成研修会の実施・・・・・・・・・・・Ｐ.５
（１）「歯と口の健康サポーター養成研修会」概要
（２）「歯と口の健康サポーター養成研修会」研修会後のアンケート調査
６）「学生に対する歯と口の健康づくり意識調査」の実施・・・・・・Ｐ.29

２．２　調査の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ.30
１）調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ.30
（１）学校実態調査
（２）歯と口の健康サポーター養成研修会後アンケート調査
（３）学生に対する歯と口の健康づくり意識調査
２）３つの調査を総合した結果と考察・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ.40

３．５年間のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ｐ.41

１．事業の概要

１） 事業目的

歯と口は,食べる,飲み込む,話すなど,人間の基本的かつ重要な役割を担っている.しかしながら,成人期になると多くの人がむし歯を有し,歯周病を有する人は年齢とともに増加していく.そして,歯周病は,中高年以降の歯を失う主要な原因であると言われている.

生涯にわたって健やかで心豊かに生活するためには,自分の歯でほぼ何でも食べることができるよう,日ごろから府民一人一人が歯と口の健康づくりを心掛けることが必要である.そのため,大阪府と大阪府歯科医師会をはじめとした歯科保健関係機関は,府民が８０歳になっても２０本以上自分の歯を有することが出来るよう８０２０（はちまるにいまる）運動を推進してきた.

その結果,大阪府の８０２０達成者率（80 歳で自分の歯を 20 本以上持つ人の割合）は増加傾向にある.しかしながら,平成 24 年度の達成率は 33.3%（平成 24 年度）と,全国平均 40.2%（平成 24 年度）より低い状況である.そして,大阪府の 40 歳における歯周病有病率は 40%（平成 23 年度）と全国値 24.3%（平成 23 年度）より高く,大阪府の８０２０達成者率の更なる改善のためには,歯の主な喪失原因となる歯周病の罹患状況のさらなる改善が求められている.

今後,歯周病予防を推進していくためには,中年期を迎える前,すなわち青年期において府民一人一人が,歯科疾患に対する早期発見・早期治療の意識を持つことが必要である.しかしながら,学校保健安全法に基づく歯科健診は小学校,中学校,高校では実施が規定されているが,大学･短大･専修学校では実施について規定されていない.そのため,多くの府民は,歯周疾患検診（健康増進法に基づき実施）の対象年齢となる 40 歳までは,歯科健診,歯科保健指導を受ける機会が少なく,結果として,青年期における歯科口腔保健の意識は高いとは言えないのが現状である.

「歯と口の健康サポーター養成事業」は,こうした現状を踏まえ,大阪府内における大学・短大・専修学校（以下「学校」とする）の保健担当者を「歯と口の健康サポーター」として養成し,「歯と口の健康サポーター」が学校において,学生に対し歯と口の健康づくりの重要性について意識づけを行うことにより,学生の歯科口腔保健の意識向上を図ることを目的とし、平成 26 年度より５ヶ年で実施した事業である.

２） 対象

大阪府内における大学・短期大学・専修学校の保健担当者等

３） 実施期間

平成２６年度より５ヶ年

４） 内容

（１）「歯と口の健康サポーター養成研修会資料」「歯と口の健康サポーター手引き」
　　「学生に対する普及啓発用媒体」の作成
（２）歯と口の健康リーダー養成研修会の実施
（３）歯と口の健康リーダー連絡調整会議の実施
（４）大阪府内における大学・短期大学・専修学校への周知・調査
（５）歯と口の健康サポーター養成研修会の実施
（６）「学生に対する歯と口の健康づくり意識調査」の実施

２．事業結果

２．１　　事業の状況

１）「歯と口の健康サポーター養成研修会資料」「歯と口の健康サポーターの手引き」「学生に対する普及啓発用媒体」の作成

歯と口の健康づくりや学校保健に関わっている学識経験者,関係機関等の協力を得て「歯と口の健康サポーター養成プログラム検討会」を設置し,検討会を４回開催することにより,以下の資料を作成した.

・歯と口の健康サポーター養成研修会資料
・歯と口の健康サポーター手引き
・学生に対する普及啓発用媒体

（ア）歯と口の健康サポーター養成プログラム検討会　開催日時

第 1 回　　平成 26 年 10 月 30 日（木）16 時 30 分～17 時 30 分
第 2 回　　平成 26 年 11 月 18 日（火）18 時～19 時
第 3 回　　平成 26 年 12 月　４日（木）18 時～19 時
第 4 回　　平成 27 年　３月 19 日（木）17 時～18 時

（イ）歯と口の健康サポーター養成プログラム検討会委員名簿（順不同・敬称略）

大阪歯科大学口腔衛生学講座准教授	川崎　弘二
大阪大学大学院歯学研究科予防歯科学教室助教	関根　伸一
大阪府学校歯科医会常務理事	上田　直克
大阪府学校歯科医会普及指導委員長	真鍋　哲也
大阪府立大学専門役	大谷香乙里
大阪府歯科衛生士会理事	品田　和子
大阪府歯科医師会理事	竹田　幸弘
大阪府歯科医師会理事	山上　博史

２）歯と口の健康リーダー養成研修会の実施

地域の歯科医師を「歯と口の健康リーダー」として養成するために,座学研修を行った.

（ア）「歯と口の健康リーダー養成研修会」概要

【開催日時】平成 26 年 12 月 16 日（火）18 時～19 時 30 分

【研修会講師】（順不同・敬称略）

大阪歯科大学口腔衛生学講座准教授	川崎　弘二
大阪大学大学院歯学研究科予防歯科学教室助教	関根　伸一
大阪府学校歯科医会常務理事	上田　直克
大阪府歯科医師会常務理事	津田　高司
大阪府歯科医師会理事	竹田　幸弘
大阪府歯科医師会理事	山上　博史
大阪府歯科医師会理事	北垣　英俊

【研修内容】

・学校保健担当者への歯科口腔保健の重要性についての動機づけの方法
・「歯と口の健康サポーター手引き」の使用方法
・「学生に対する普及啓発用媒体」の使用方法
・「歯と口の健康サポーター養成研修会」の開催方法
・事業施設実施地域の選定（特定の地域に偏ることがないよう取り組む）
・その他

３）歯と口の健康リーダー連絡調整会議の実施

事業実施にあたり,歯と口の健康リーダー（地域における公衆衛生事業の中心的役割を担う歯科医師）と有識者（歯と口の健康サポーター養成プログラム検討会委員）の間で,歯と口の健康リーダー連絡調整会議を行った.

【協議・説明内容】

・「歯と口の健康サポーター手引き」の使用方法
・「学生に対する普及啓発用媒体」の使用方法
・「歯と口の健康サポーター養成研修会」の開催方法
・歯科口腔保健の重要性についての動機づけの方法
・事業施設実施地域の選定（特定の地域に偏ることがないよう取り組む）
・その他,事業実施に関わる事項

（ア）平成 27 年度実施概要

【開催日時】平成 27 年 10 月 6 日（火）16 時 30 分～18 時

【開催場所】大阪府歯科医師会

【講師】　　大阪府歯科医師会理事　　山上　博史

【参加者】　20 名

（参加地区：サポーター養成研修会実施地区 9 名,周知広報実施地区 11 名）

（イ）平成 28 年度実施概要

【開催日時】平成 28 年 10 月 4 日（火）17 時～18 時

【開催場所】大阪府歯科医師会

【講師】　　大阪府歯科医師会理事　　山本 道也

【参加者】20 名

（参加地区：サポーター養成研修会実施地区 10 名,周知広報実施地区 10 名）

（ウ）平成 29 年度実施概要

【開催日時】平成 29 年 10 月 26 日（木）14 時～15 時

【開催場所】大阪府歯科医師会

【講師】　　大阪府歯科医師会理事　　山上　博史

　　大阪府歯科医師会理事　　山本　道也

【参加者】15 名

（参加地区：サポーター養成研修会実施地区 6 名,周知広報実施地区 9 名）

（エ）平成 30 年度実施概要

【開催日時】平成 30 年 10 月 11 日（木）18 時 30 分～19 時 30 分

【開催場所】大阪府歯科医師会

【講師】　　大阪府歯科医師会理事　　山上　博史

　　大阪府歯科医師会理事　　山本　道也

【参加者】15 名

（参加地区：サポーター養成研修会実施地区 11 名,周知広報実施地区 4 名）

４）歯と口の健康リーダーによる学校への周知広報と実態調査

大阪府下の大学・短大・専修学校に対して,歯と口の健康づくりについて普及啓発を行うとともに,学校保健担当者（もしくは学生担当者）に対して,以下の事項について周知広報と「歯と口の健康サポーター養成研修会」への参加を促した.

また,保健室の設置状況等について学校実態調査を行った.

（１）周知広報

【周知広報項目】

・「歯と口の健康サポーター手引き」の使用方法

・「学生に対する普及啓発用媒体」の使用方法

（ア）平成 26 年度（48 校）

（イ）平成 27 年度（24 校）

（ウ）平成 28 年度（24 校）

（エ）平成 29 年度（24 校）

（オ）平成 30 年度（14 校）

（２）実態調査｛結果はＰ．30　「２．２　調査の状況」１）調査結果（１）参照｝

【調査項目】
・学校における保健担当者の有無及び職種
・「歯と口の健康リーダー」の周知に対する学校保健担当者の反応
・学校での歯科健診実施状況

５）歯と口の健康サポーター養成研修会の実施

「歯と口の健康リーダー」が中心となり,「歯と口の健康サポーター養成研修会資料」｛Ｐ．２　１)「歯と口の健康サポーター養成研修会資料」「歯と口の健康サポーターの手引き」「学生に対する普及啓発用媒体」の作成」参照｝を活用し,大学・短大・専修学校の保健担当者等に対し,学校において「学生に対し歯科口腔保健の重要性について意識づけ」のための取り組みを行う「歯と口の健康サポーター」として育成するための研修会を行った.

また,研修会参加者に対し,アンケート調査を実施した.

【研修会内容】
・学校における歯と口の健康づくりの意義について（講義形式）
・歯と口の健康づくりに関する基礎知識（講義形式）
・歯と口の健康づくりに関する意識向上について（ワークショップ形式）

（１）「歯と口の健康サポーター養成研修会」概要

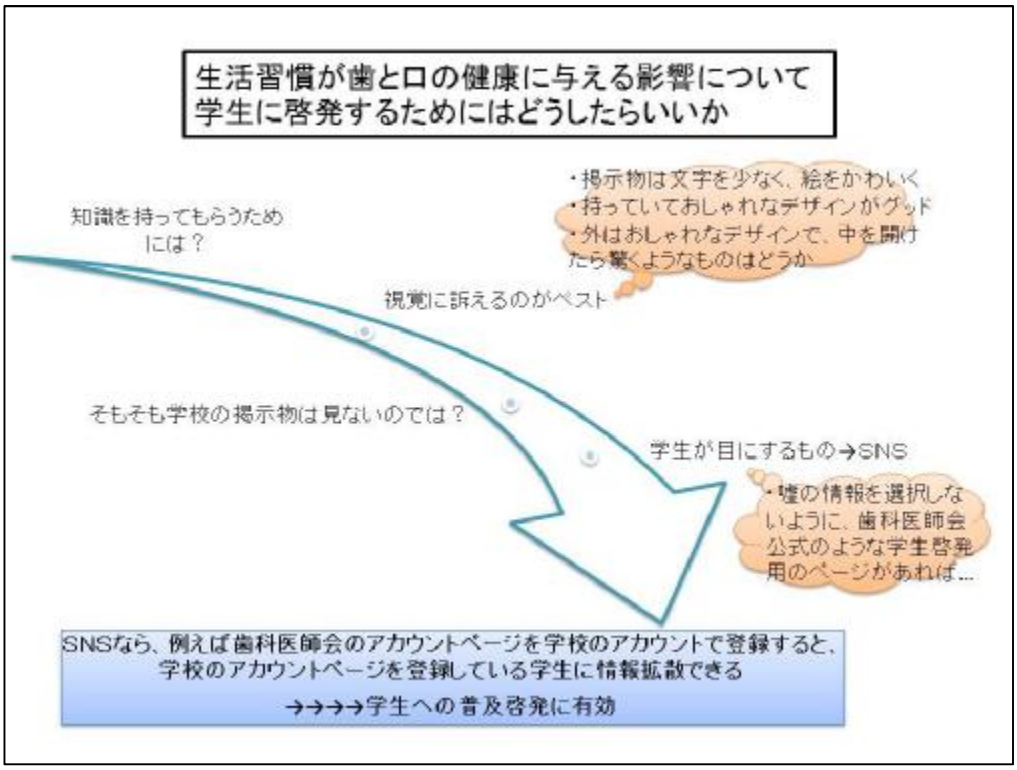
（ア）平成 26 年度試行実施（複数圏域）
【開催日時】平成 27 年３月 12 日（火）15 時～17 時
【開催場所】大阪府歯科医師会館
【研修会講師（ファシリテーター)】(順不同・敬称略)
大阪府歯科医師会理事　竹田　幸弘
大阪府歯科医師会理事　山上　博史
【参加者】８名
【参加校】７校

【グループディスカッションのテーマと結論】

＜Ａグループ＞

テーマ：生活習慣が歯と口の健康に与える影響について学生に啓発するためにはどうしたらいいか

グループディスカッション成果物（図案化）：

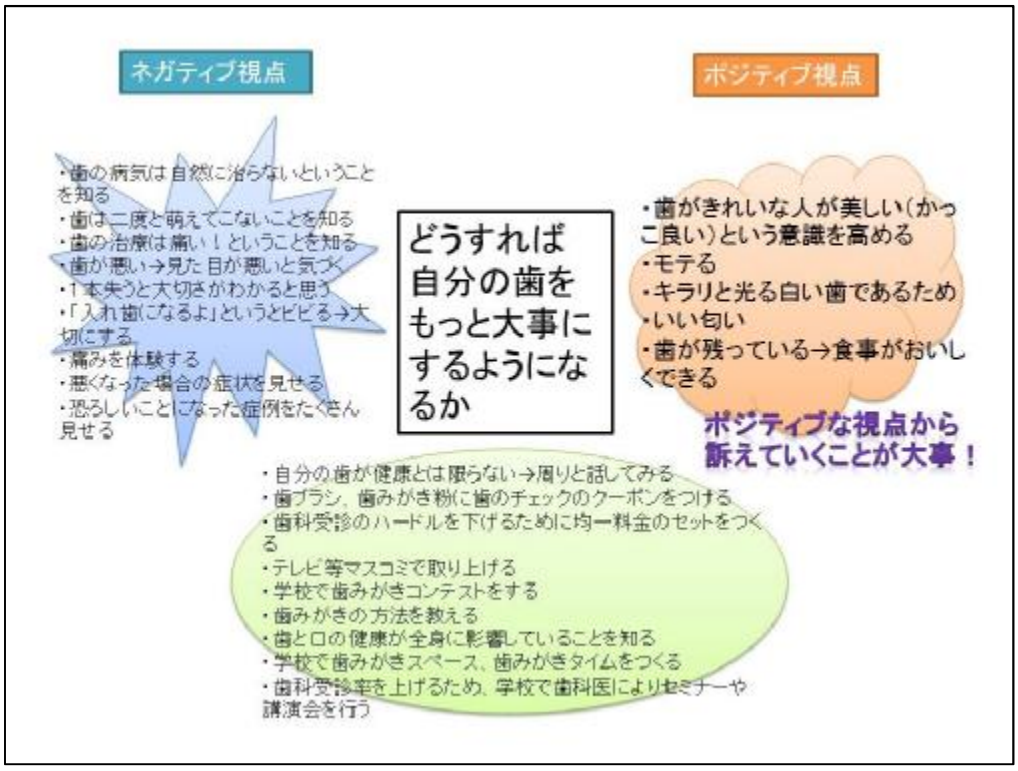


結論：ＳＮＳを活用して普及啓発を行う.

＜Ｂグループ＞

テーマ：どうすれば自分の歯をもっと大事にするようになるか.

グループディスカッション成果物（図案化）：



結論：歯がきれいな人が美しい（格好良い）など,ポジティブな視点から訴えていく方が効果的である.

（イ）平成 27 年度実施（大阪市圏域①）

【開催日時】平成 27 年 11 月 12 日（木）13 時～14 時 30 分

【開催場所】ホテル阪神

【研修会講師（ファシリテーター)】(順不同・敬称略)

福島区歯科医師会会長　　垣内　康弘

福島区歯科医師会副会長　　藤井　章司

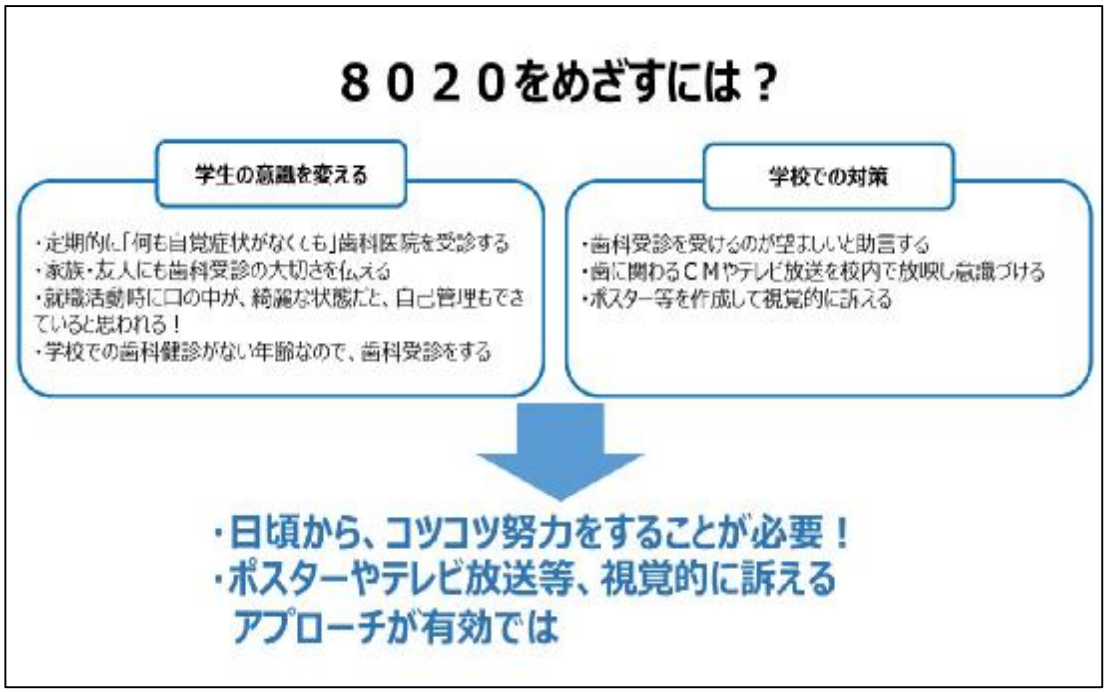
【参加者】２名

【参加校】２校

【グループディスカッションのテーマと結論】

テーマ：８０２０をめざすにはどうしたらいいか.

グループディスカッション成果物（図案化）:



結論：日頃からコツコツ努力することが必要.

また,学生の意識を高めるためには,テレビ放送等,視覚的に訴える方法が有効ではないか.

(ウ)平成 27 年度実施（南河内圏域）

【開催日時】平成 27 年 11 月 26 日（木）15 時～17 時

【開催場所】LIC はびきの

【研修会講師（ファシリテーター)】(順不同・敬称略)

羽曳野市歯科医師会会長　　山本　明平

羽曳野市歯科医師会顧問　　竹田　幸弘

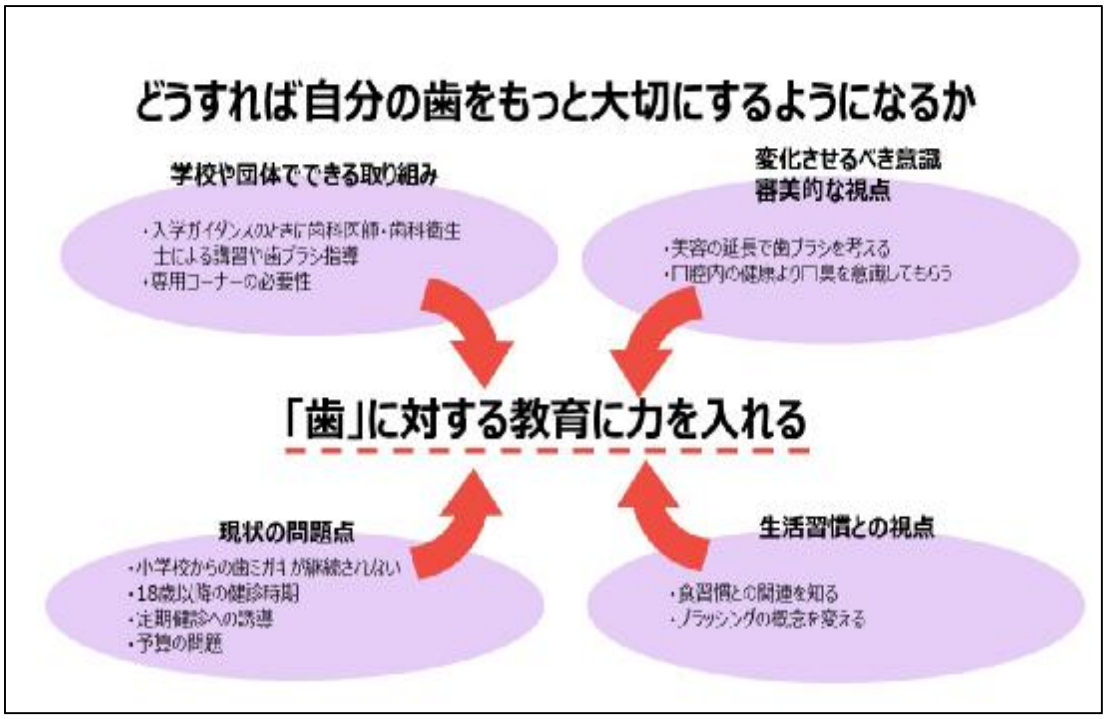
【参加者】５名

【参加校】３校

【グループディスカッションのテーマと結論】

テーマ：どうすれば自分の歯をもっと大切にするようになるか.

グループディスカッションの成果物（図案化）:



結論：歯に対する教育に力を入れる.

(エ)平成 27 年度実施（堺市圏域）

【開催日時】平成 27 年 12 月 3 日（木）15 時～17 時

【開催場所】堺市口腔保健センター新館

【研修会講師（ファシリテーター)】(順不同・敬称略)

堺市歯科医師会常務理事　　山上　博史

堺市歯科医師会理事　　吉田　剛

堺市歯科医師会理事　　髙安　勇輝

【参加者】９名

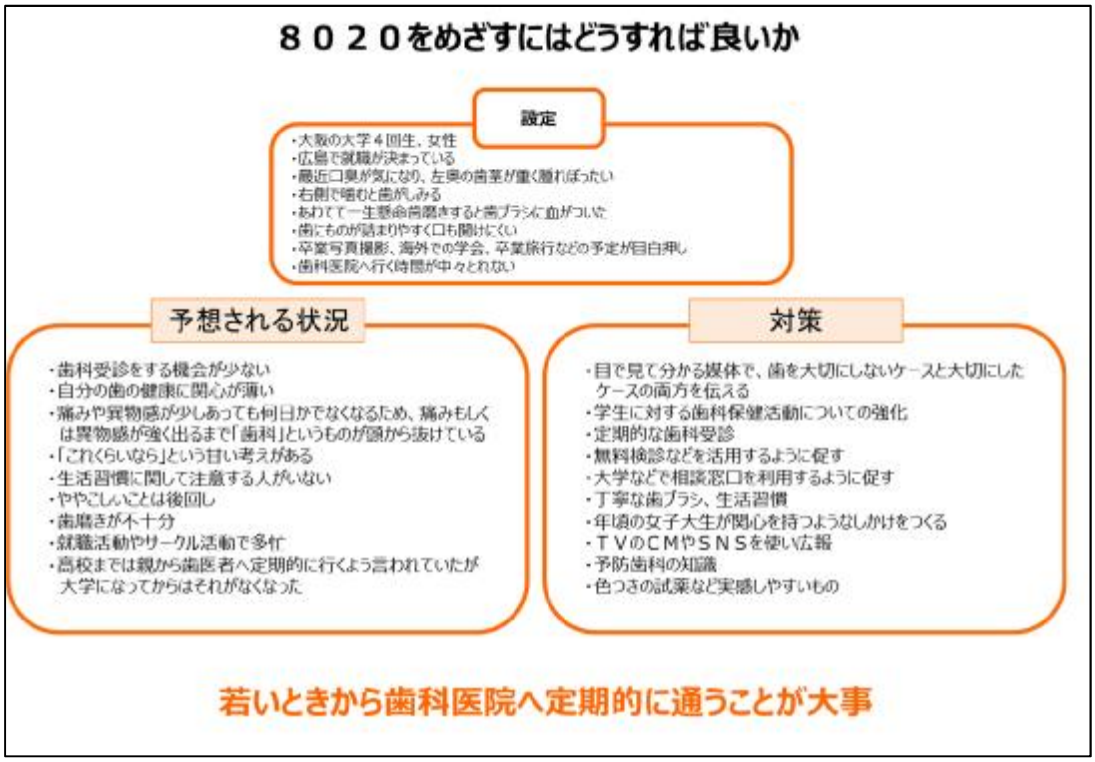
【参加校】７校

【グループディスカッションのテーマと結論】

＜Ａグループ＞

テーマ：８０２０をめざすにはどうすれば良いか

グループディスカッションの成果物（図案化）：



結論：若いときから歯科医院へ定期的に通うことが大事

＜Ｂグループ＞

テーマ：どうすれば自分の歯を大切にするようになるか

グループディスカッションの成果物（図案化）：

結論：歯の健康に対する知識を持つ,インターネット社会を活用するなどし,
　　歯の健康に関する情報を得,生活や行動改善をすることが必要である.

(オ)平成 27 年度実施（大阪市圏域②）

【開催日時】平成 27 年 12 月 3 日（木）15 時～17 時

【開催場所】大阪北区歯科医師会 事務所

【研修会講師（ファシリテーター)】(順不同・敬称略)

大阪北区歯科医師会常務理事　　樋口　春彦

大阪北区歯科医師会地域医療部員　　水沼　武史

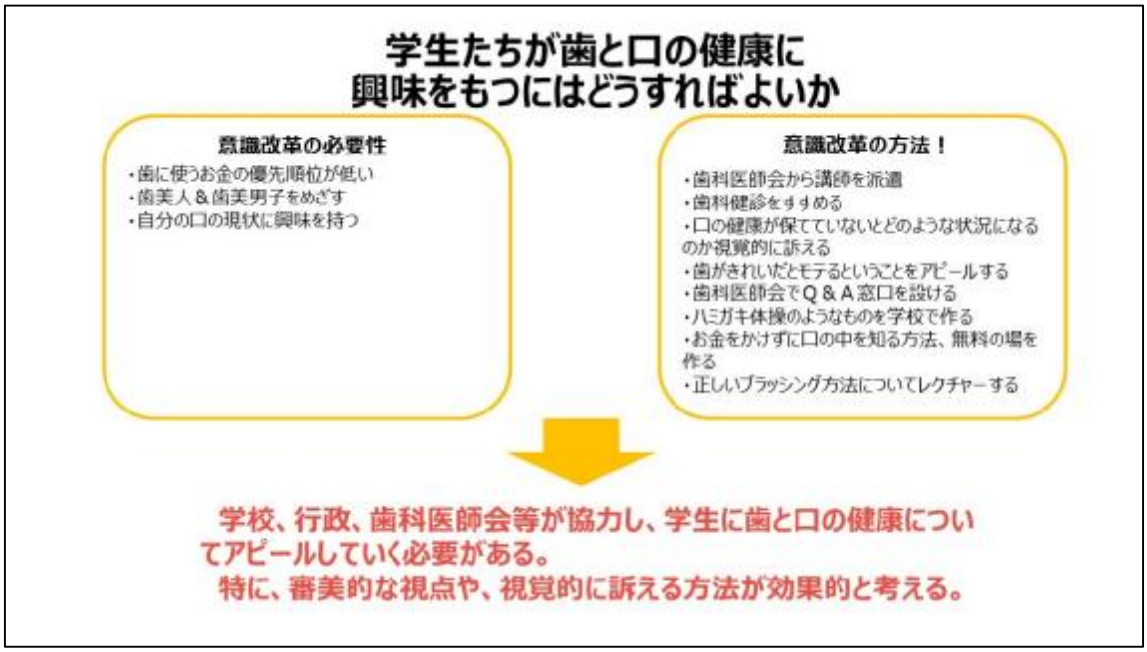
【参加者】４名

【参加校】４校

【グループディスカッションのテーマと結論】

テーマ：学生たちが歯と口の健康に興味をもつにはどうすればよいか.

グループディスカッションの成果物（図案化）：



結論：学校,行政,歯科医師会等が協力し,学生に歯と口の健康についてアピールしていく必要がある.特に,審美的な視点や,視覚的に訴える方法が効果的と考える.

(カ)平成 28 年度実施（三島圏域）

【開催日時】平成 28 年 11 月 30 日（水）14 時～16 時

【開催場所】高槻市生涯学習センター第１会議室

【研修会講師（ファシリテーター)】(順不同・敬称略)

摂津市歯科医師会公衆歯科衛生・地域生涯歯科保健推進委員　福田 泰明

摂津市歯科医師会副会長　中西　徹

【参加者】７名

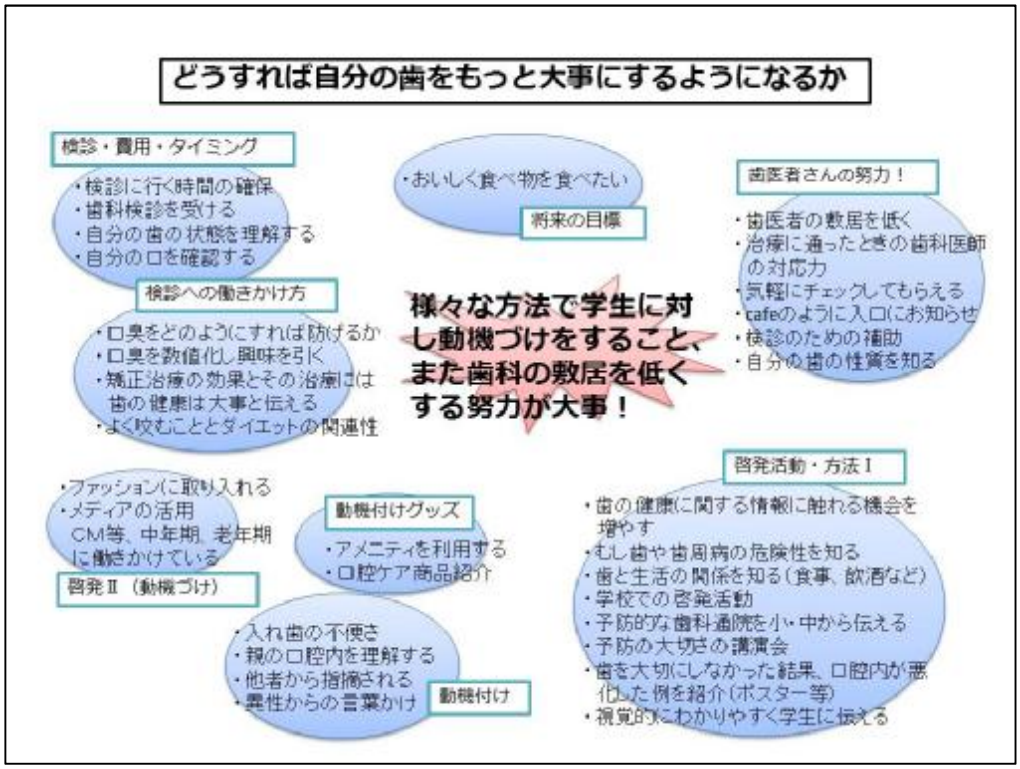
【参加校】６校

【グループディスカッションのテーマと結論】

＜Ａグループ＞

テーマ：どうすれば自分の歯をもっと大事にするようになるか

グループディスカッション成果物（図案化）:



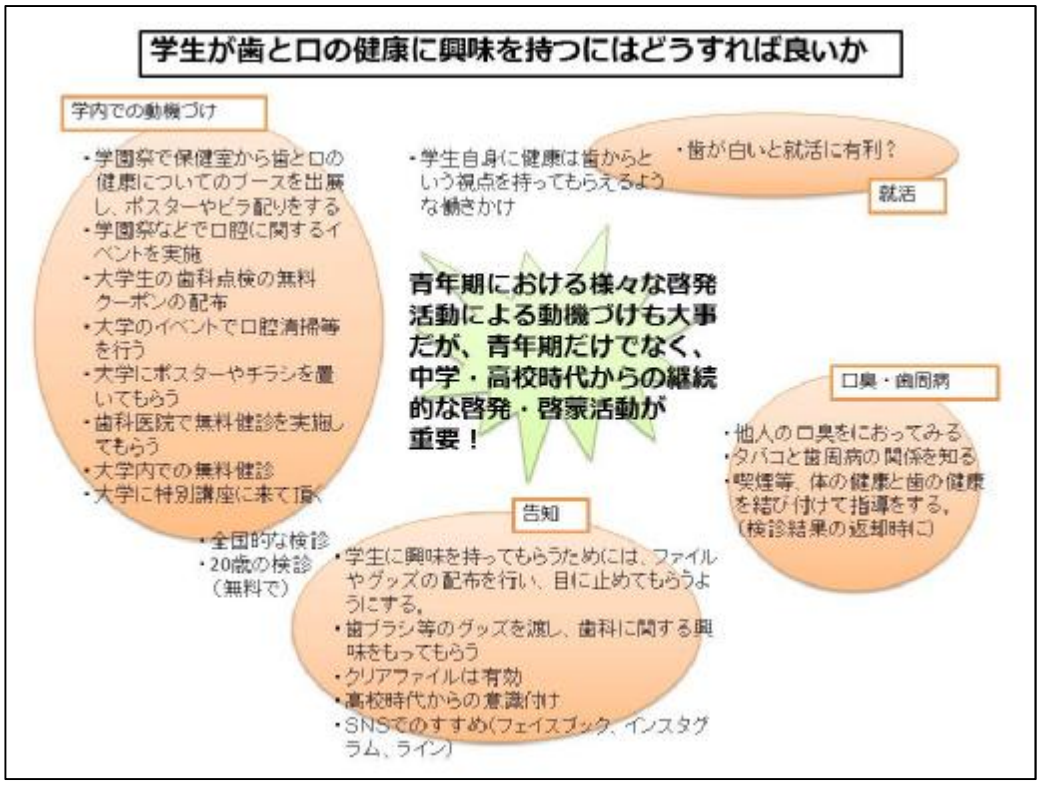
結論：様々な方法で学生に対し動機づけをすること,

また,敷居を低くする歯科医院の努力が大事である.

＜Ｂグループ＞

テーマ：学生が歯と口の健康に興味を持つにはどうすれば良いか

グループディスカッション成果物（図案化）：



結論：青年期につなげるための中学・高校時代からの継続的な啓発・啓蒙活動が重要になり，若者が自分の口腔内の健康を自分自身のためと意識でき，興味を持てるようになるのではないかと考える．

(キ)平成 28 年度実施（豊能圏域）

【開催日時】平成 28 年 11 月 24 日（木）13 時 30 分～15 時 30 分

【開催場所】豊中市医療保健センター

【研修会講師（ファシリテーター)】(順不同・敬称略)

箕面市歯科医師会理事　　高島　隆太郎

豊中市歯科医師会理事　　尾口　英太郎

吹田市歯科医師会副会長　　三木　秀治

【参加者】７名

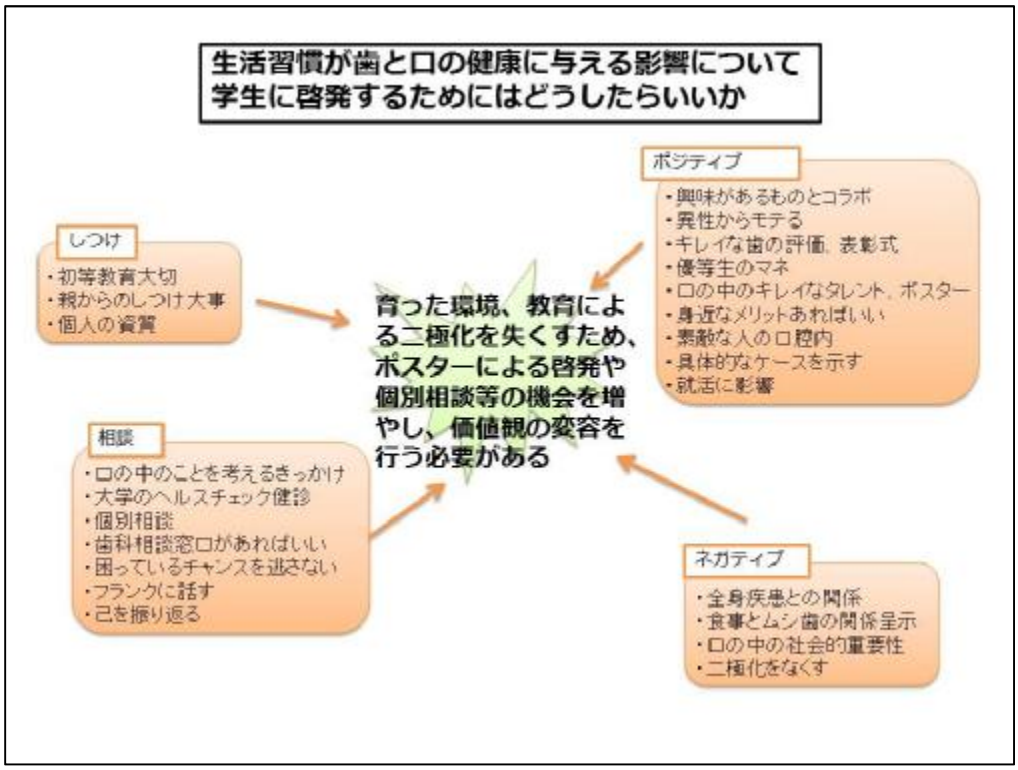
【参加校】６校

【グループディスカッションのテーマと結論】

＜Ａグループ＞

テーマ：生活習慣が歯と口の健康に与える影響について学生に啓発するには
どうしたら良いか

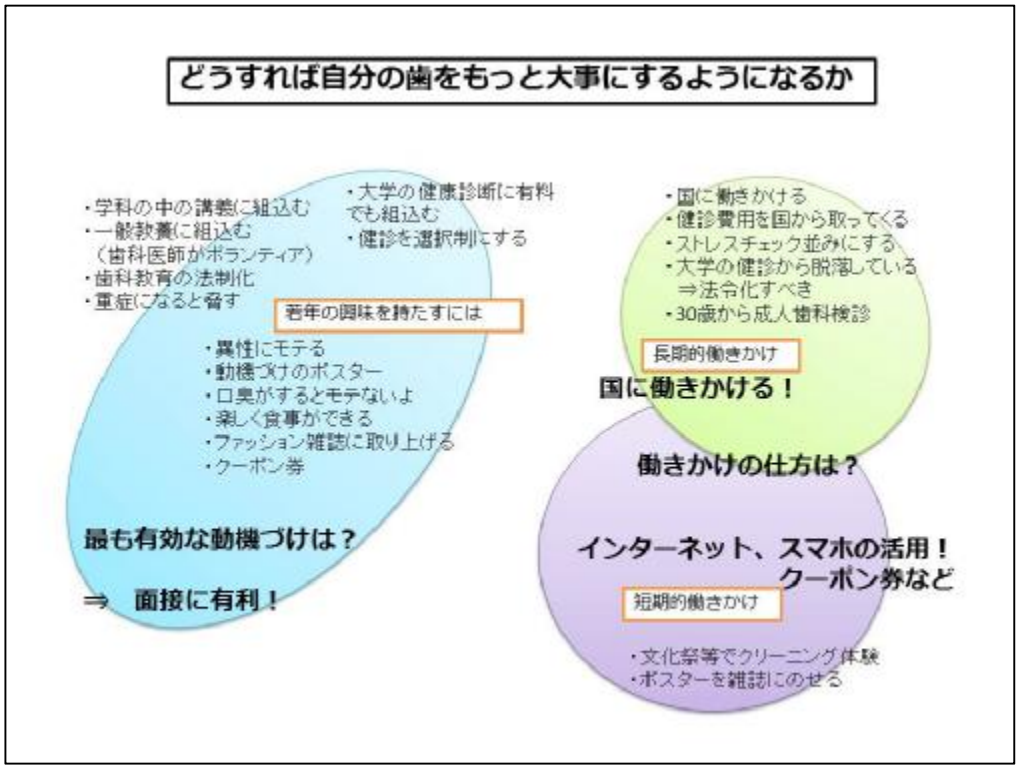
グループディスカッション成果物（図案化）：



結論：ＫＪ法による討論の結果として,「口腔に関する価値観は育った家庭での教育が大事であり,うまく教育されたものとされなかったものの差が,現に口腔内の状態の二極化という形で表在している.しかしながら価値観は働きかけにより変容できるため,行動を強化するためのポスター,個別相談などの機会を増やして対応する必要がある」という結論に達した.

＜Ｂグループ＞
テーマ：どうすれば自分の歯をもっと大事にするようになるか

グループディスカッション成果物（図案化）：

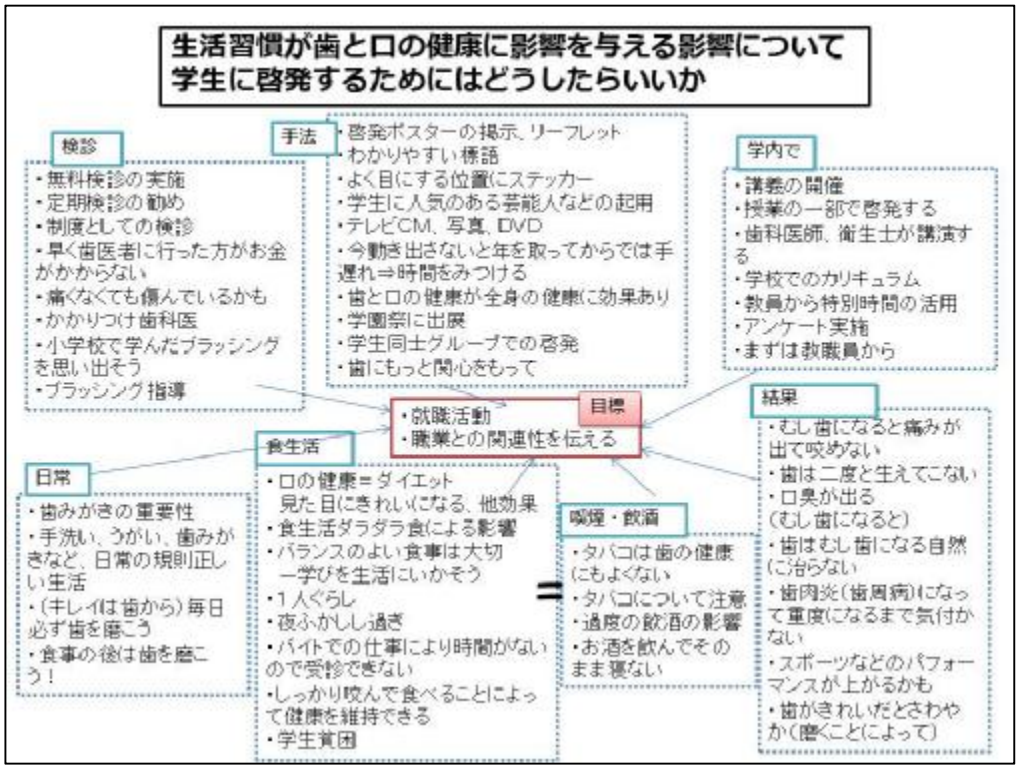


結論：ＫＪ法による討論の結果として,「若者にあった動機づけが大事であり,歯を大切にすることによって自分の人生において得になるかもしれないと思わせることが重要である.今はポジティブな理由により歯を大切にすることで,結果として将来のリスクにも対応できる」という結論に達した.

＜Ｃグループ＞

テーマ：生活習慣が歯と口の健康に与える影響について学生に啓発するにはどうしたら良いか

グループディスカッション成果物（図案化）：



結論：学生らの歯科検診受診率の向上に対する法整備，公的な健診の要望，また口腔保健活動の啓発方法，食生活や喫煙，飲酒など，日常生活においての注意点や改善方法等についてディスカッションを行った結果，口腔の健康が就職活動に大きく影響を及ぼすことがある，という内容で啓発を行うことが最も効果的だという結論に達した．

(ク)平成 29 年度実施（北河内圏域）

【開催日時】平成 29 年 12 月 14 日（木）15 時～17 時

【開催場所】大東市市民会館

【研修会講師（ファシリテーター)】(順不同・敬称略)

大東・四條畷市歯科医師会専務理事　　吉野　源悟

大東・四條畷市歯科医師会公衆衛生理事　　三谷　卓士

【参加者】２名

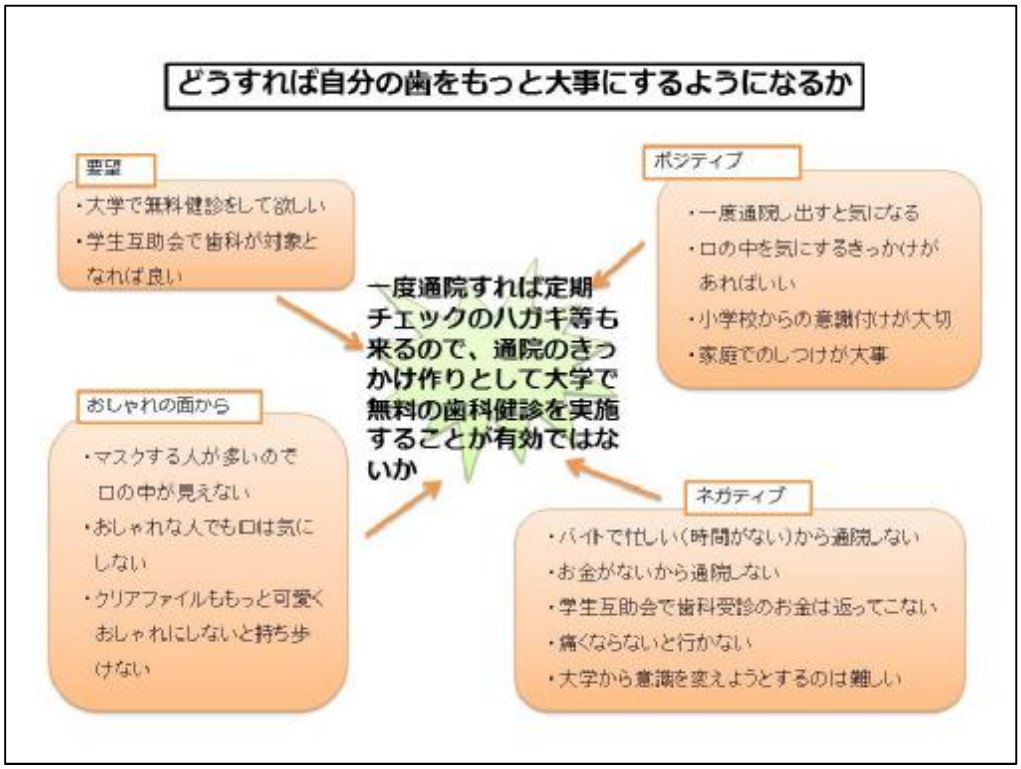
【参加校】２校

【グループディスカッションのテーマと結論】

＜Ａグループ＞

テーマ：どうすれば自分の歯をもっと大事にするようになるか

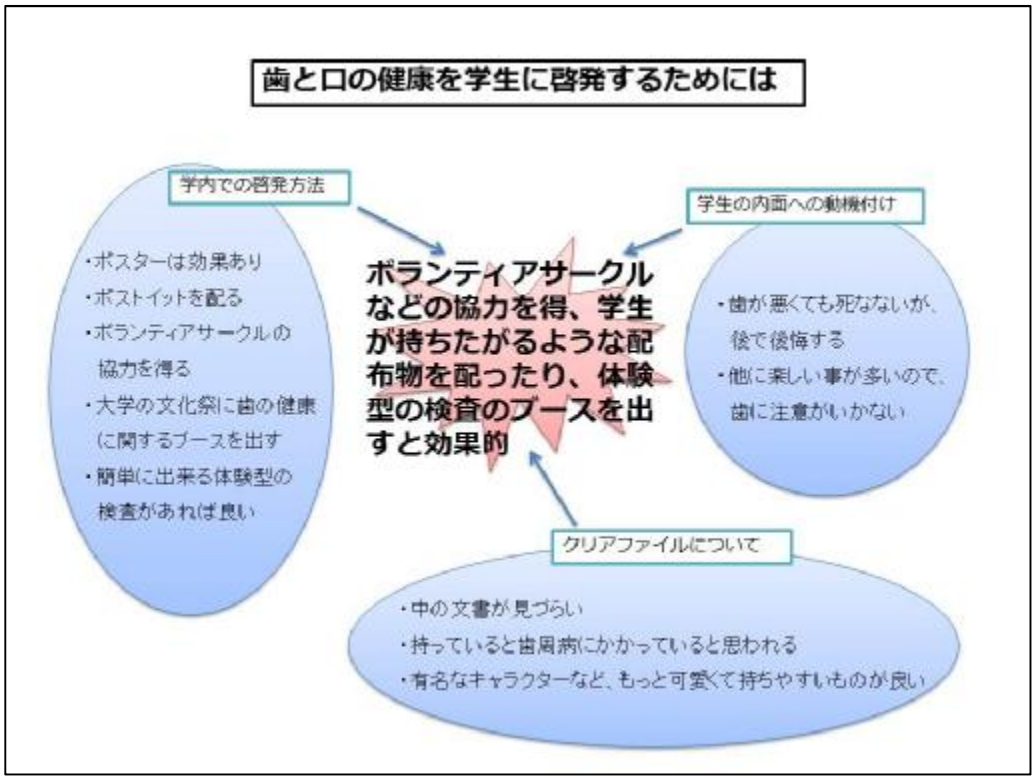
グループディスカッション成果物（図案化）：



結論：一度通院すればその後は歯を大切にする意識が生まれると思うので,通院のきっかけ作りとなるような無料健診等を学内で実施することが有効だと考える.

＜Ｂグループ＞
テーマ：歯と口の健康を学生に啓発するためには

グループディスカッション成果物（図案化）：



結論：ボランティアサークルなどに協力を仰ぎ,文化祭等で歯科関連のブースを出し,学生が持ちたがるような配布物を配るとともに,体験型の何か検査をすると効果があるのではないかと考える.

(ケ)平成 29 年度実施（中河内圏域）

【開催日時】平成 30 年 3 月 20 日（木）13 時 30 分～15 時 30 分

【開催場所】東大阪市西歯科医師会事務所

【研修会講師（ファシリテーター)】(順不同・敬称略)

東大阪市西歯科医師会専務理事　　奥田　宗義

東大阪市西歯科医師会常務理事　　岩田　秀雄

【参加者】４名

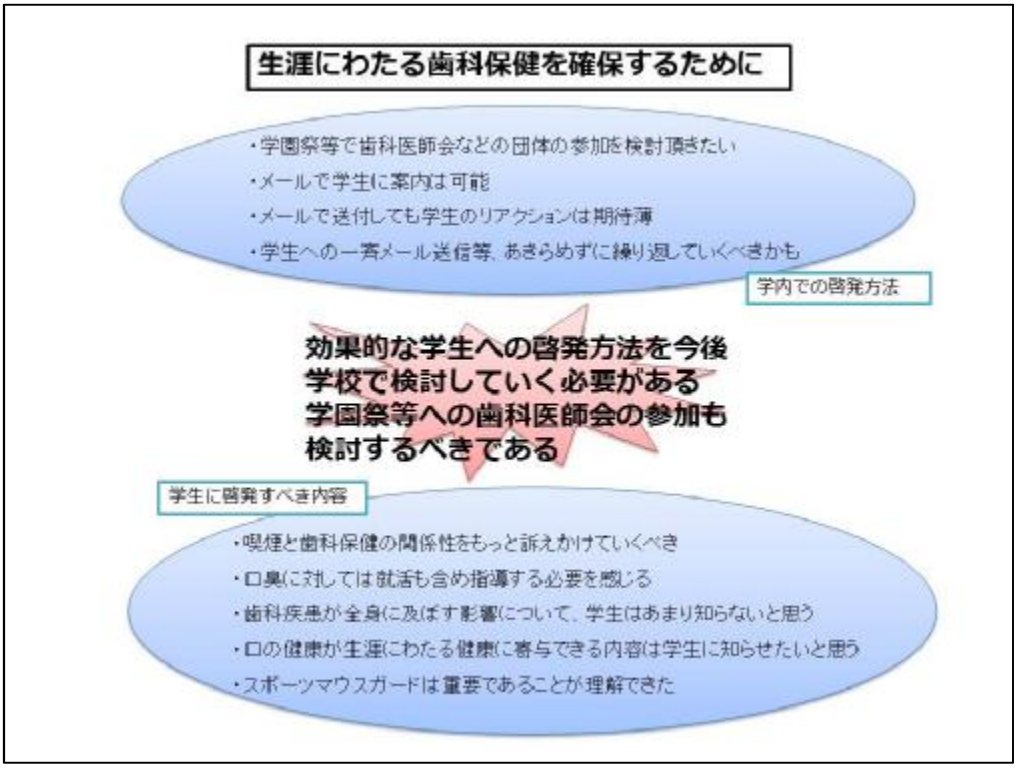
【参加校】３校

【グループディスカッションのテーマと結論】

＜Ａグループ＞

テーマ：生涯にわたる歯科保健を確保するために

グループディスカッション成果物（図案化）：

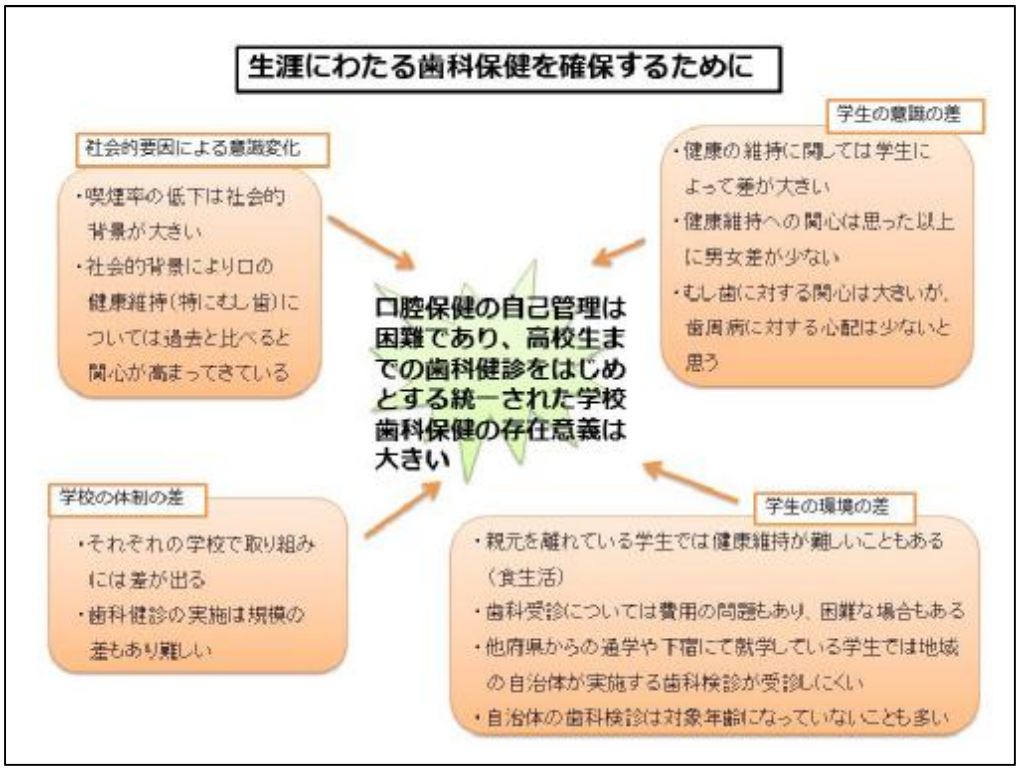


結論：生涯にわたる歯科保健意識の向上を図るには青年期より意識を変えていくことが非常に重要であり,その為には効果的な学生への啓発方法を今後学校で検討していく必要がある.学園祭等への歯科医師会等の団体の参加も検討する必要がある.

＜Ｂグループ＞

テーマ：生涯にわたる歯科保健を確保するために

グループディスカッション成果物（図案化）：



結論：高校生までの歯科健診をはじめとする学校歯科保健の存在意義は大きく，生涯に渡って類似の制度により歯科保健をカバーすることが理想である．

(コ)平成 30 年度実施（泉州圏域）

【開催日時】平成 30 年 12 月 20 日（水）13 時 30 分～15 時 30 分

【開催場所】岸和田市保健センター３階研修室

【研修会講師（ファシリテーター)】(順不同・敬称略)

和泉市歯科医師会理事　　西野　武四

泉佐野泉南歯科医師会副会長　　戸口　能全

【参加者】10 名

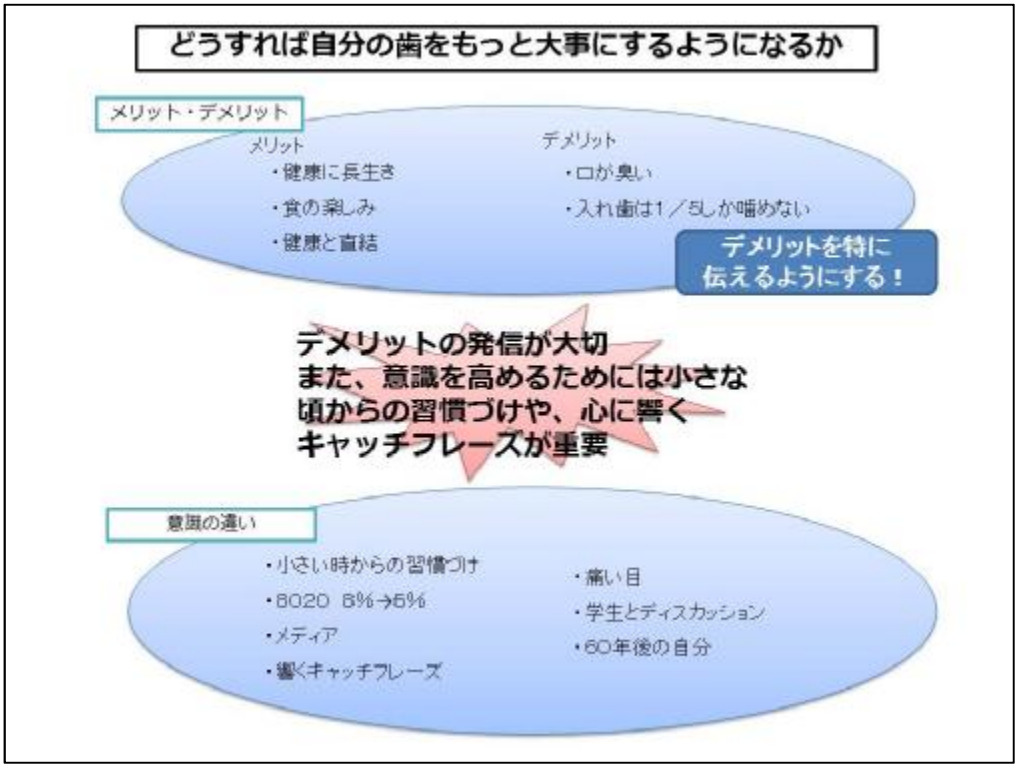
【参加校】７校

【グループディスカッションのテーマと結論】

＜Ａグループ＞

テーマ：どうすれば自分の歯をもっと大事にするようになるか

グループディスカッション成果物（図案化）：

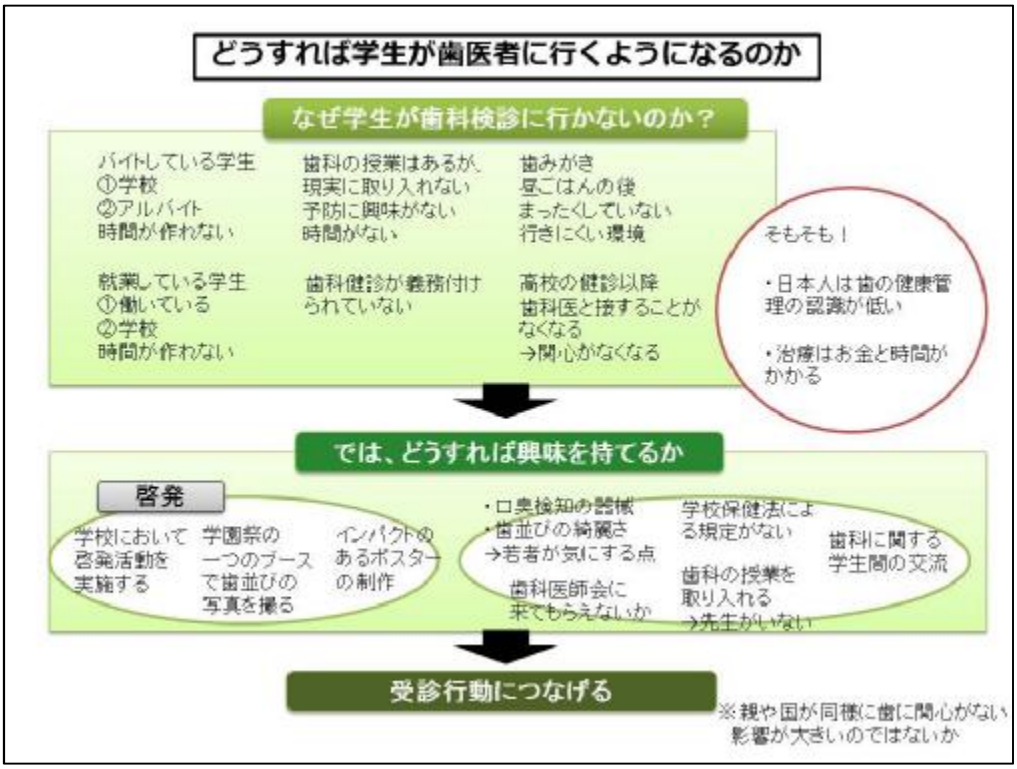


結論：メリットよりもデメリットを発信することが大切.また,小さな頃からの習慣づけや,心に響くキャッチフレーズが重要.

＜Ｂグループ＞

テーマ：どうすれば学生が歯医者に行くようになるのか

グループディスカッション成果物（図案化）：



結論：学生には時間やお金がなく,歯科医院には行き辛い.その根本には親の意識の低さや,国の制度の無さが関係しているのではないか.
学校において可能な啓発活動を実施するとともに,学校保健法等で規定されるよう国が制度を変える必要がある.

(サ)平成 30 年度実施（大阪市圏域③）

【開催日時】平成 31 年 1 月 17 日（木）13：30～15：00

【開催場所】淀川区歯科医師会館

【研修会講師（ファシリテーター)】(順不同・敬称略)

東淀川区歯科医師会会長　　堀田　善史

淀川区歯科医師会副会長　　横山　文浩

【参加者】７名

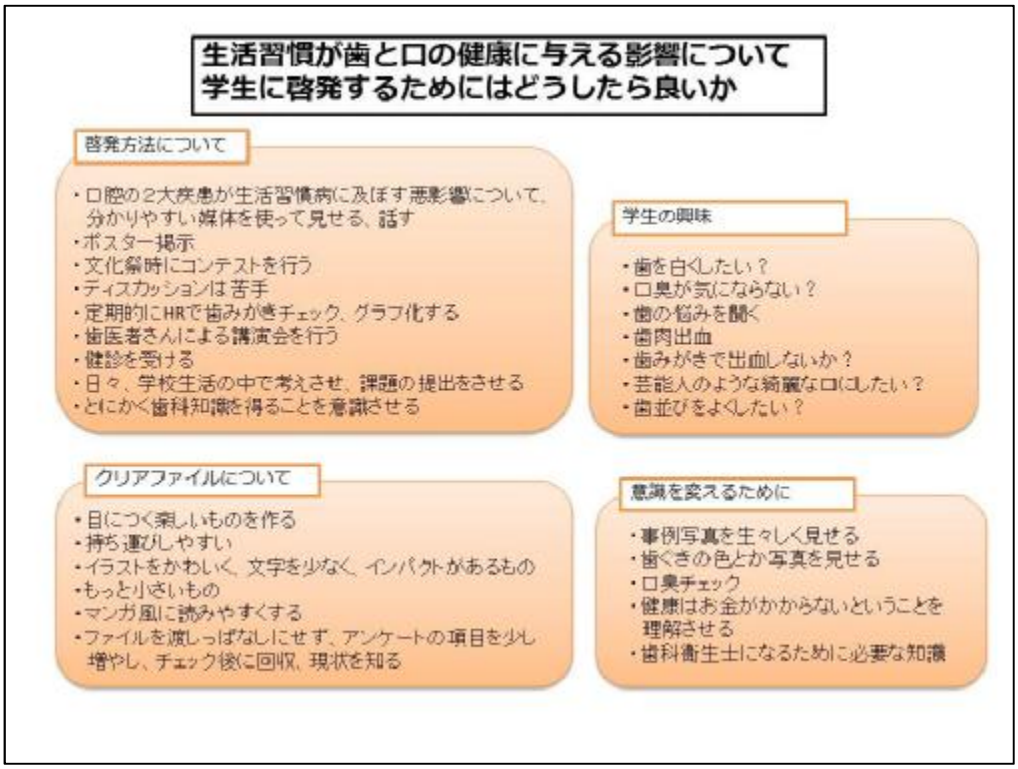
【参加校】５校

【グループディスカッションのテーマと結論】

＜Ａグループ＞

テーマ：生活習慣が歯と口の健康に与える影響について学生に啓発するためにはどうしたら良いか

グループディスカッション成果物（図案化）：

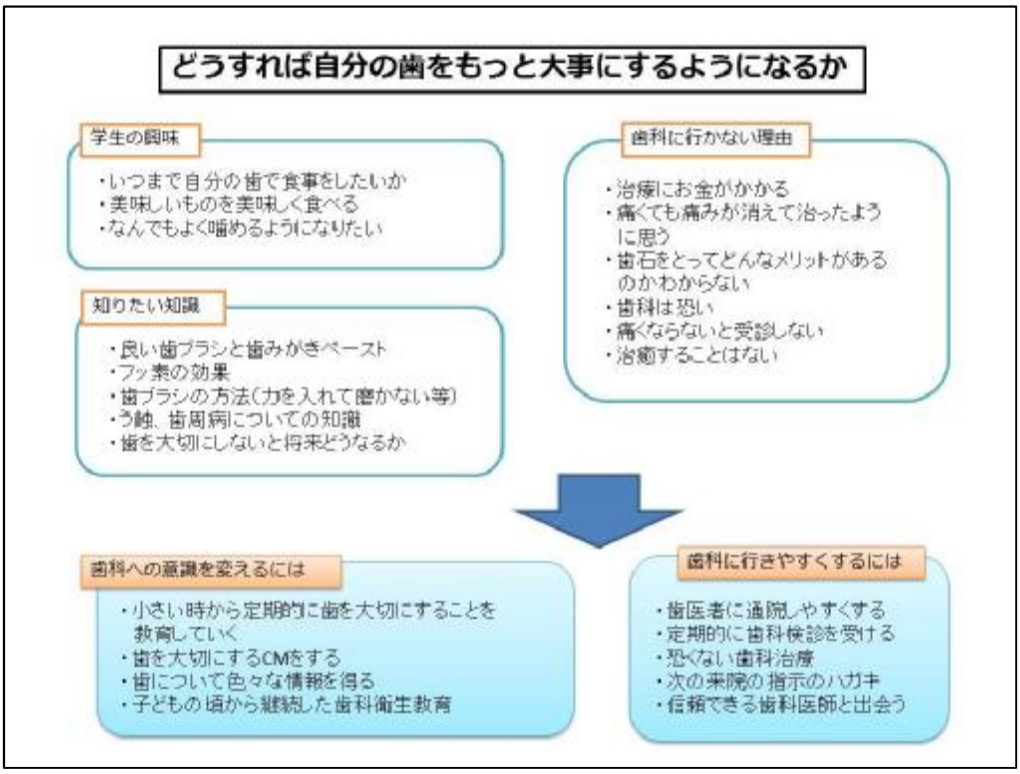


結論：学生の意識を変えるために,口臭等の学生の興味を引くテーマを中心に,様々な啓発方法とインパクトのある媒体を用いて啓発することが重要.

＜Ｂグループ＞

テーマ：どうすれば自分の歯をもっと大事にするようになるか

グループディスカッション成果物（図案化）：



結論：小さい頃から継続した歯科衛生教育で歯科への意識を変える.また,定期的に歯科検診を受け,次の来院の際にはハガキ等でお知らせをくれるなど,歯科は恐くなく行き易いところだと認識することも必要.

(シ)平成 30 年度実施（大阪市圏域④）

【開催日時】平成 31 年２月７日（木）14：00～16：00

【開催場所】大阪府歯科医師会　第６会議室

【研修会講師（ファシリテーター)】(順不同・敬称略)

城東区歯科医師会専務理事　　北垣　英俊

城東区歯科医師会理事　　鹿谷　宗司

【参加者】９名

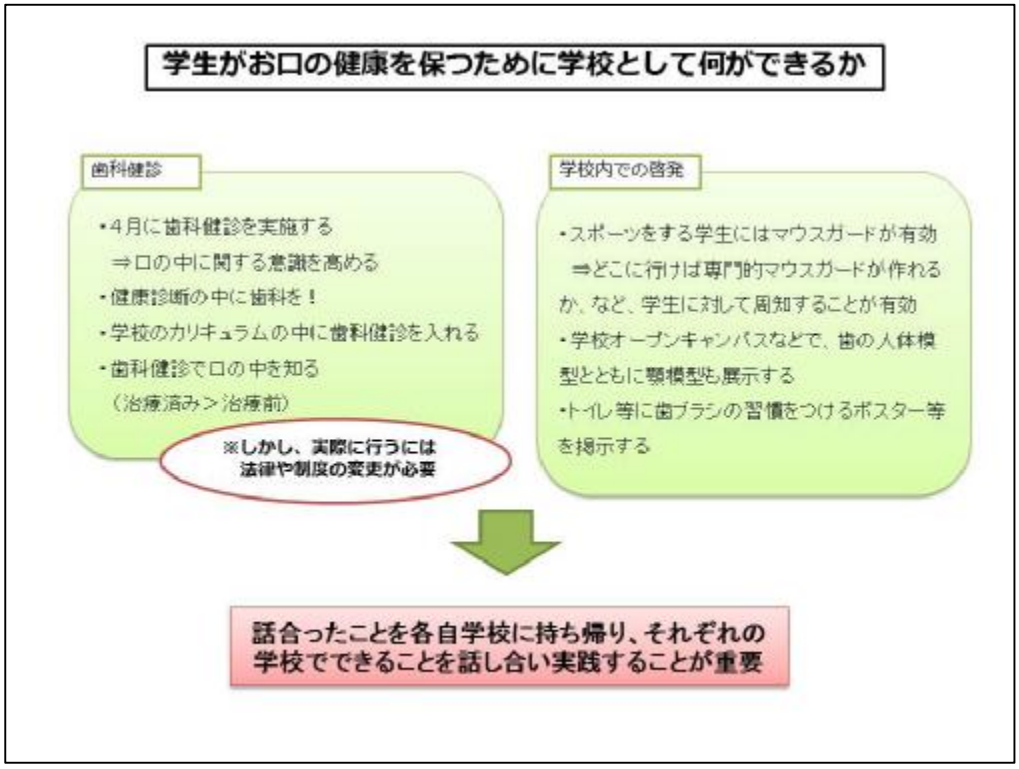
【参加校】７校

【グループディスカッションのテーマと結論】

＜Ａグループ＞

テーマ：学生がお口を健康に保つために学校として何ができるか

グループディスカッション成果物（図案化）：

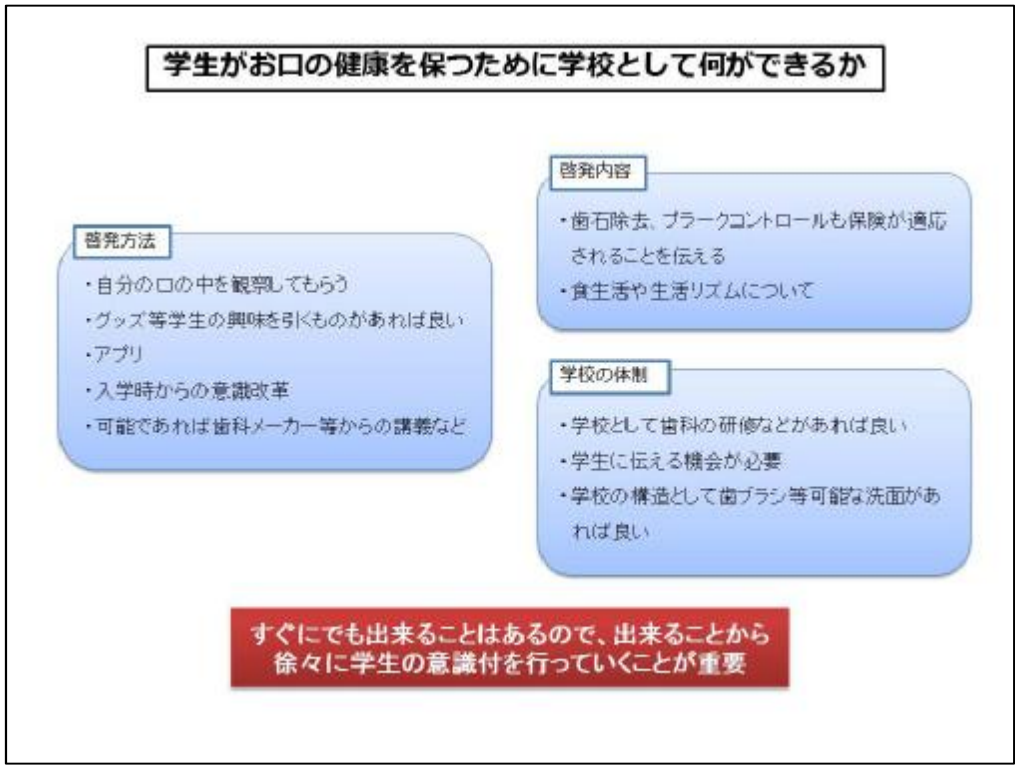


結論：　歯科健診の導入からポスター等の普及啓発まで,各学校で出来る対応は様々だと思うので,まずは今回話し合った内容を持ち帰り,各学校で出来ることを話合い,実践することが重要.

＜Ｂグループ＞

テーマ：学生がお口の健康を保つために学校として何ができるか

グループディスカッション成果物（図案化）：



結論：歯ブラシが出来る洗面所の整備等,時間が必要なものもあるが,オリエンテーションで自分の口の中を観察してもらうなどすぐに実施可能なこともあるので,出来ることから徐々に学生への意識付けを行っていくことが必要.

（２）「歯と口の健康サポーター養成研修会」研修会後のアンケート調査

｛結果はＰ．31　「２．２　調査の状況」１）調査結果（２）参照｝

【調査項目】

・学校における歯と口の健康づくりに関する取り組みについて
・学校で実施した歯と口の健康づくりの取り組みの詳細について
・研修内容について事前にどの程度知っていたか
・研修会や手引書の内容以外で知りたいこと,もしくは,もう少し詳しく知りたいことについて
・研修による学校での歯科口腔保健の普及啓発の重要性について
・普及啓発媒体（クリアファイル）の効果的な活用方法について
・学生に対する普及啓発媒体に関する意見
・今後の学校での歯科口腔保健に関する取り組みが実施出来るかについて
・今後の学校での歯科口腔保健に関する取り組みについての詳細

６）「学生に対する歯と口の健康づくり意識調査」の実施

関西女子短期大学,関西福祉科学大学と梅花女子大学をモデル校とし,事業評価にあたり,学生を対象としたアンケート調査を実施した.

｛結果はＰ．34　「２．２　調査の状況」１）調査の結果（３）参照｝

【調査項目】

・毎日の歯みがきの頻度
・日常的に使用している口腔衛生用品
・口に関することで気になること
・歯ぐきの状態について当てはまる症状
・自分の口の中を鏡でチェックする頻度
・歯周病を進行させる要因について
・ひとりで食事する頻度
・よく味わって,よく噛んで食べることについて
・よく噛むことの全身への働きについて
・「いただきます」「ごちそうさま」を言う頻度
・かかりつけ歯科医と一年以内の歯科健診について
・歯科健診の結果について

２．２　　調査の状況

１）調査結果

（１）学校実態調査（５年間で 134 校に実施）

表１　学校における保健担当者配置の認識の有無

認識	学校数	（%）
有	99	73.9
無	34	25.4
その他	1	0.7
合　計	134	100.0

配置職種	全体		（内）大学		（内）短大		（内）専修学校	
	学校数	(%)	学校数	（%）	学校数	（%）	学校数	(%)
医師	57	57.6	23	52.3	5	38.5	29	69.0
看護師	65	65.7	32	72.7	10	76.9	23	54.8
保健師	20	20.2	15	34.1	4	30.8	1	0.2
その他	21	21.2	11	25.0	5	38.5	5	11.9
全体	99		44		13		42	

表２　保健担当者の職種別配置状況（複数回答可）

表３「歯と口の健康リーダー」の周知に対する学校保健担当者の反応

設置	校数	（%）
良い	110	82.1
普通	22	16.4
悪い	2	1.5
合　計	134	100.0

表４　学校での歯科健診実施状況

歯科健診	校数	（%）
有	6	4.5
無	128	95.5
合　計	134	100.0

（２）歯と口の健康サポーター養成研修会後アンケート調査

（５年間で 12 回実施し,計 60 校,74 名の参加）

表５　今回の研修に参加し学校での歯科口腔保健の普及啓発が重要だと感じたかの確認

歯科口腔保健の普及啓発	人数	（%）
重要だと感じた	73	98.6
重要だと感じなかった	0	0.0
無回答	1	1.4
合　計	74	100.0

表６　研修会までに実施した学校における歯と口の健康づくりに関する取り組みについて

取り組みを実施したか	校数	（%）
実施した	16	26.7
実施していない	41	68.3
無回答	3	5.0
合　計	60	100.0

表７　取り組みの内容（学校における歯と口の健康づくりに関する取り組みを実施した３校対象、複数回答可）

取り組み内容	校数	（%）
歯科定期健診	1	6.3
歯科健康相談	2	12.5
学校行事等での普及啓発	6	37.5
その他	8	50.0
全　体	16	

表８　研修内容を事前に知っていたかの確認

知識の有無	人数	（%）
ほとんど知っていた	12	16.2
ある程度知っていた	27	36.5
知らないことが多かった	26	35.1
ほとんど初めて知った	4	5.4
無回答	5	6.8
合　計	74	100.0

表９　研修会や手引書の内容以外で知りたいこと

・歯の不健康から生じる疾患について
・歯を健康に保つ方法
・食事・飲料との関連性
・水ですすがないハミガキ方法,ブラッシング方法
・口臭,舌苔について
・酸蝕歯,予防歯科について
・うがい,歯みがきの適切な回数
・虫歯や歯周病と身体の病気の関係
・自分の状況に最適な歯磨きグッズ
・フッ素塗布について
・20 代の若者に対しての直近に発生するリスク
・具体的な口腔ケアの方法

表 10　普及啓発用媒体（クリアファイル）の効果的な活用方法（配布場所）についての意見（複数回答可）

配布場所	回答数	（%）
一般定期健康診断	30	40.5
就職説明会	13	17.6
講義	44	59.5
その他	12	16.2
全　体	74	

表 11　学生に対する普及啓発用媒体に関する意見

・イラストなどを増やし,読むより見る方がよい
・審美的な視点を重視して欲しい
・学生用としては内容が難しいと思う
・クリアファイル活用している
・セルフチェック項目が役立っている
・セルフチェック項目にいくつチェックが入ったらどうなるかの具体例があった方がいい
・かわいいキャラクターの方が持ちやすい
・アプリやスマホを活用した方がいい
・フローチャート形式で自分のリスクを知るようなものも良い

表 12　今後の学校での歯科口腔保健に関する取り組みが実施出来るかについて

取り組みの実施	人数	（%）
可能だと感じた	62	83.8
難しいと思う	7	9.5
無回答	5	6.7
合　計	74	100.0

表 13　今後の学校での歯科口腔保健に関する取り組みについて
（今後学校での取り組みが可能だと感じた 62 名対象、複数回答可）

実施出来そうな取り組み	人数	（%）
普及啓発の機会増加	39	62.9
行事等での啓発コーナーの設置	23	37.1
その他	12	19.4
全　体	62	

表 14　実施出来そうな取り組み「その他」の内容

・次年度は研修会を企画したい
・授業内容を変えて啓発し,継続できるように試みる
・講義（老年看護学概論）のなかで関連させて,話す機会をつくる
・上司に伝えてみる
・学校グループの中に歯科もあるので,健診につなげたい
・歯科健診を取り入れようと考えている
・歯科衛生士の学生さん達との交流
・就職部に働きかける
・授業時間等を利用して歯科医師より歯と口のお話をしていただく
・発達段階ごとの授業で強化したい
・健康フェアを活用したい
・掲示物を作成して貼りだしたり,大学独自のネット内で流す

（３）学生に対する歯と口の健康づくり意識調査

【関西女子短期大学, 関西福祉科学大学のアンケート調査対象学生数】

表 15　平成 26 年度実施時の学生の所属別人数分布

学校名・学科	平成 26 年度　学年（人）					小計
	入学時	2 年進級時	3 年進級 or 卒業時	4 年進級時	無回答	
関西女子短期大学　養護保健学科	43	1	0	0	0	44
関西女子短期大学　医療秘書学科	54	0	0	0	0	54
関西女子短期大学　歯科衛生学科	112	0	0	0	0	112
関西女子短期大学　保育学科	104	2	1	0	0	107
関西福祉科学大学　ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学科	5	120	116	105	0	346
無回答	1	2	0	0	16	19
合　計	319	125	117	105	16	682

表 16　平成 27 年度実施時の学生の所属別人数分布

学校名・学科	平成 27 年度　学年（人）				小計
	入学時	2 年進級時	3 年進級 or 卒業時	4 年進級時	
関西女子短期大学　養護保健学科	54	29	0	0	83
関西女子短期大学　医療秘書学科	40	54	0	0	94
関西女子短期大学　歯科衛生学科	0	119	109	0	228
関西女子短期大学　保育学科	112	108	0	0	220
関西福祉科学大学　ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学科	0	49	73	0	122
関西福祉科学大学　健康科学学科	0	73	60	56	189
無回答	0	0	0	0	0
合　計	206	432	242	56	936

表 17　平成 28 年度実施時の学生の所属別人数分布

学校名・学科	平成 28 年度　学年（人）					小計
	入学時	2 年進級時	3 年進級 or 卒業時	4 年進級時	無回答	
関西女子短期大学　養護保健学科	35	31	0	0	1	67
関西女子短期大学　医療秘書学科	38	50	0	0	1	89
関西女子短期大学　歯科衛生学科	103	101	81	0	3	288
関西女子短期大学　保育学科	0	85	118	0	0	203
関西女子短期大学（学部空欄）	1	2	1	0	3	7
関西福祉科学大学　ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学科	165	144	132	0	0	441
関西福祉科学大学　健康科学科	0	54	66	30	1	151
関西福祉科学大学（学部空欄）	0	0	0	0	3	3
合　計	342	467	398	30	12	1,249

表 18　平成 29 年度実施時の学生の所属別人数分布

学校名・学科	平成 29 年度　学年（人）				小計
	入学時	2 年進級時	3 年進級 or 卒業時	4 年進級時	
関西女子短期大学　養護保健学科	41	37	0	0	78
関西女子短期大学　医療秘書学科	29	39	0	0	68
関西女子短期大学　歯科衛生学科	105	115	114	0	334
関西女子短期大学　保育学科	86	119	0	0	205
関西福祉科学大学　リハビリテーション学科	175	167	120	49	511
合　計	436	477	234	49	1,196

表 19　平成 30 年度実施時の学生の所属別人数分布

学校名・学科	平成 30 年度　学年（人）				小計
	1 年	2 年	3 年	4 年	
関西女子短期大学　養護保健学科	42	42	0	0	84
関西女子短期大学　医療秘書学科	26	39	1	0	66
関西女子短期大学　歯科衛生学科	103	105	115	0	323
関西女子短期大学　保育学科	83	120	0	0	203
関西福祉科学大学　リハビリテーション学科	170	167	99	124	560
合　計	424	473	215	124	1,236

【梅花女子大学のアンケート調査対象学生数】

表 20　平成 28 年度実施時の学生の所属別人数分布

学校名・学科	平成 28 年度　学年（人）					小計
	1 年	2 年	3 年	4 年	空白	
梅花女子大学　情報メディア学科	10	38	24	25	1	98
梅花女子大学　日本文化創造学科	0	27	22	25	1	75
梅花女子大学　国際英語学科	3	24	17	14	1	59
梅花女子大学　こども学科	4	43	44	30	3	124
梅花女子大学　心理学科	0	34	22	29	1	86
梅花女子大学　食文化学科	1	33	32	26	4	96
梅花女子大学　看護学科	24	39	44	17	1	125
梅花女子大学　口腔保健学科	77	59	0	0	0	136
梅花女子大学　（学部空欄）	0	1	1	0	8	10
合　計	119	298	206	166	20	809

表 21　平成 29 年度実施時の学生の所属別人数分布

学校名・学科	平成 29 年度　学年（人）				小計
	1 年	2 年	3 年	4 年	
梅花女子大学　情報メディア学科	60	40	0	0	100
梅花女子大学　日本文化創造学科	33	17	2	0	52
梅花女子大学　国際英語学科	16	10	1	0	27
梅花女子大学　こども学科	59	61	21	0	141
梅花女子大学　心理学科	36	42	14	19	111
梅花女子大学　食文化学科	59	62	0	0	121
梅花女子大学　看護学科	79	65	2	0	146
梅花女子大学　口腔保健学科	67	72	67	0	206
梅花女子大学　管理栄養学科	36	0	0	0	36
合　計	445	369	107	19	940

表 22　平成 30 年度実施時の学生の所属別人数分布

学校名・学科	平成 30 年度　学年（人）				小計
	1 年	2 年	3 年	4 年	
梅花女子大学　情報メディア学科	49	51	19	27	146
梅花女子大学　日本文化創造学科	24	26	23	21	94
梅花女子大学　国際英語学科	29	8	24	24	85
梅花女子大学　こども学科	46	54	31	19	150
梅花女子大学　心理学科	59	37	14	25	135
梅花女子大学　食文化学科	64	60	20	28	172
梅花女子大学　看護学科	80	81	82	18	261
梅花女子大学　口腔保健学科	63	66	63	57	249
梅花女子大学　管理栄養学科	37	35	0	0	72
合　計	451	418	276	219	1,364

（イ）アンケート調査の結果

調査項目を【意識の変化】【知識の変化】【歯科受診について】に分け、変化の見られた項目について取り上げた。

【意識の変化について】

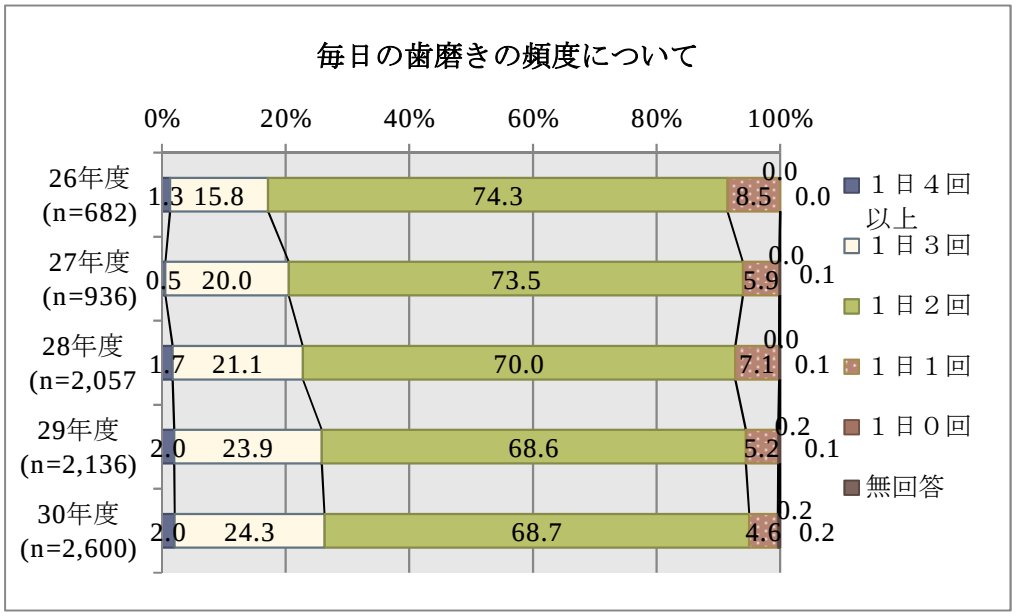


図１．毎日の歯磨きの頻度について

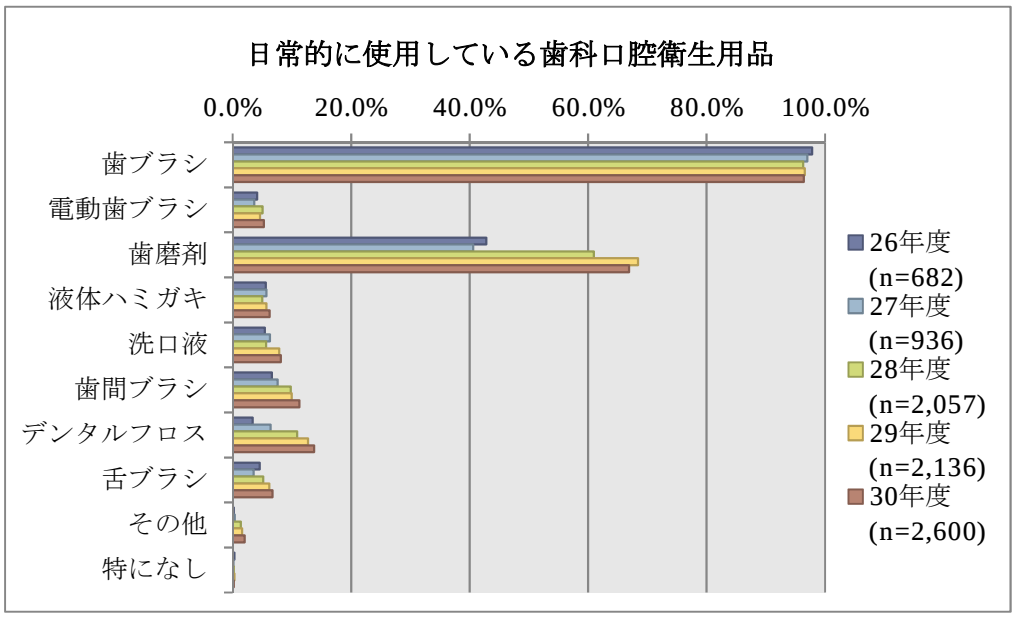


図２.日常的に使用している歯科口腔衛生用品

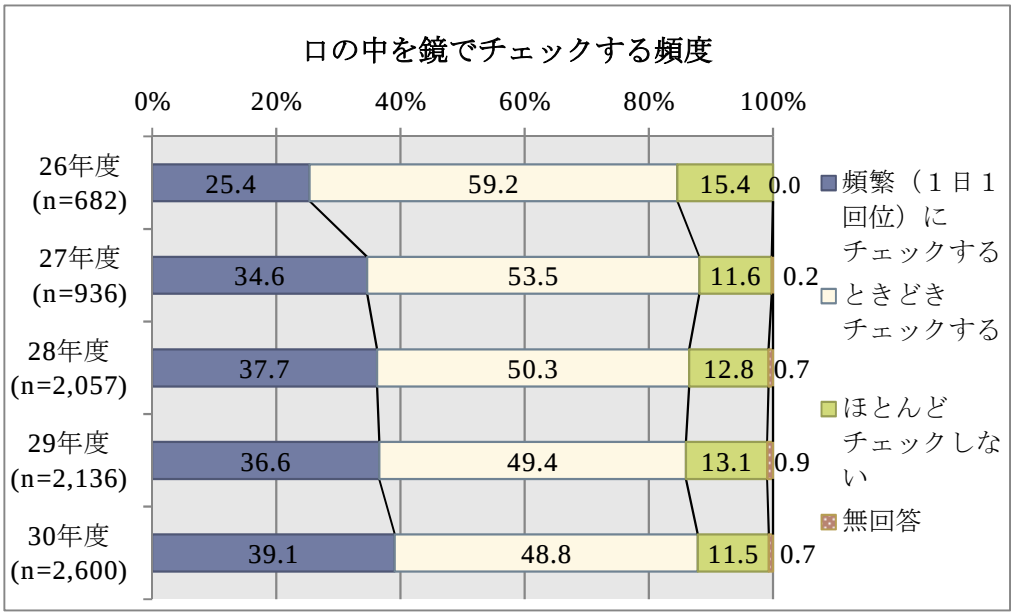


図３．口の中を鏡でチェックする頻度

毎日の歯磨き頻度については，事業実施年度を通して１日２回磨く者が最も多かったが，事業を進めるとともに，１日３回磨く者の割合が増加する傾向がみられた．日常的に使用している歯科口腔衛生用品では歯ブラシが最も多く，電動歯ブラシを使用する者は６％未満であった．また，歯磨剤を使用する者は平成 26，27 年度では約 40%，平成 28 年度以降でも 60%台であった．この結果は対象者が歯磨剤は歯磨き粉であることを知らなかったためと推察される．また，歯間部清掃用具を使用する者は事業を進めるとともに増加したが，平成 30 年度の結果，歯間ブラシを使用する者は 11.2%，デンタルフロスを使用する者は 13.7%であった．口の中を鏡でチェックする頻度ではほとんどチェックしない者は 10%台でほとんど変化しなかったが，頻繁にチェックする者は平成 26 年度で 25.4%であったのが平成 30 年度は 39.1%に増加した．

【知識の変化について】

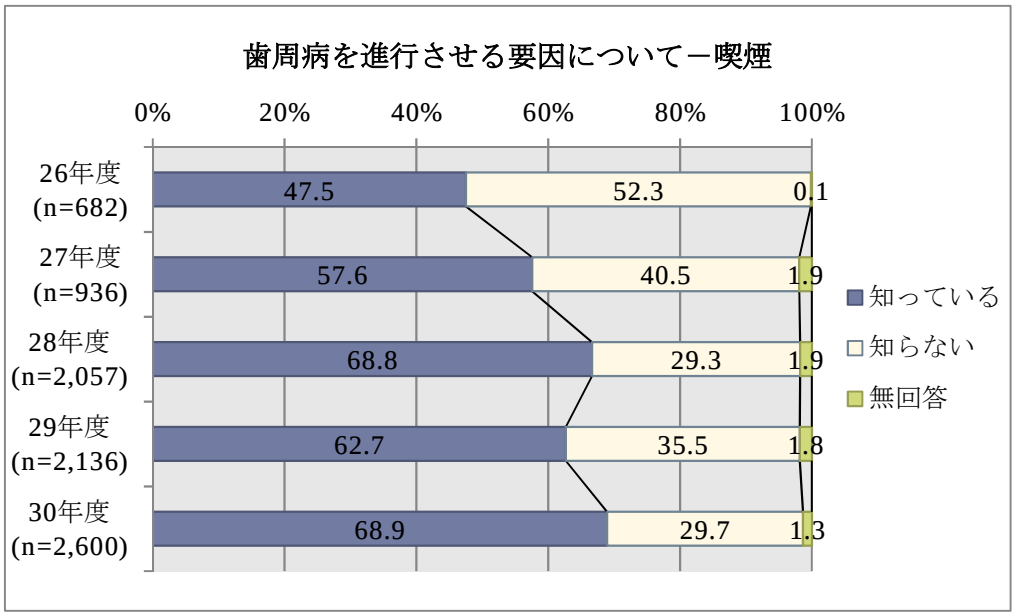


図４．歯周病を進行させる要因について－喫煙

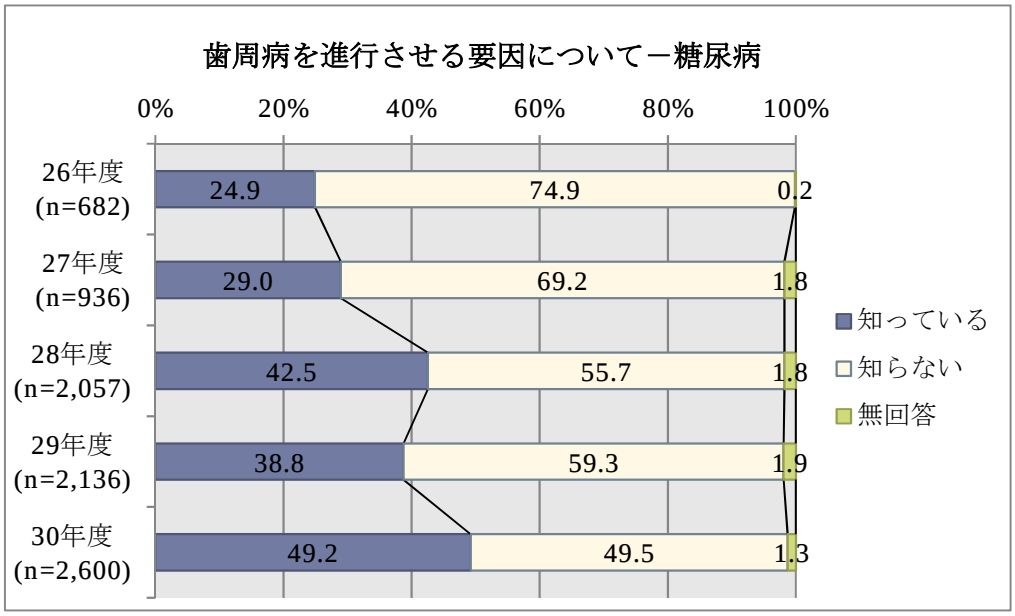


図５．歯周病を進行させる要因について－糖尿病

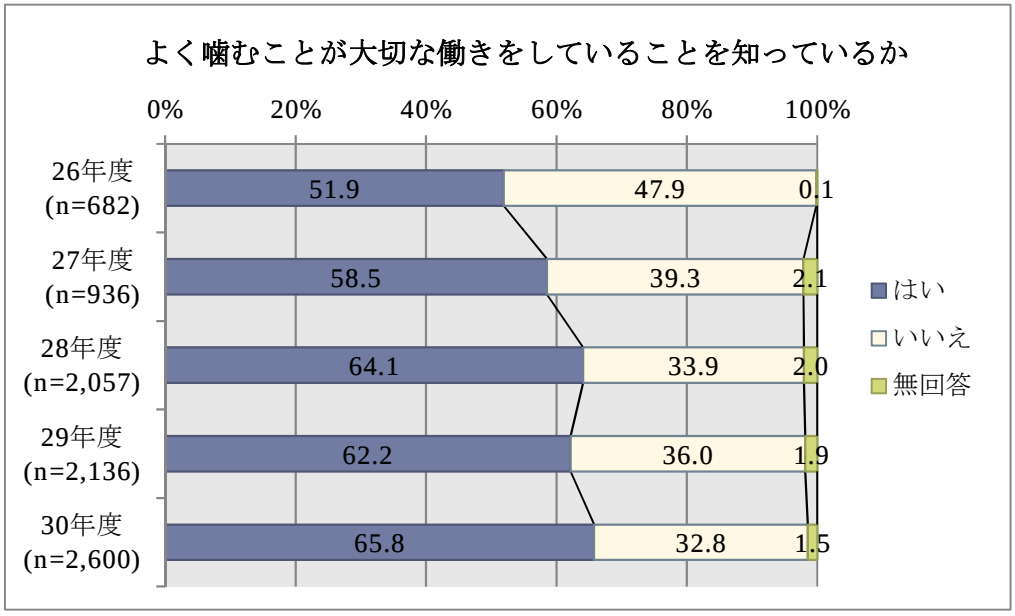


図６．よく噛むことが大切な働きをしていることを知っているか

喫煙と糖尿病が歯周病を進行させる要因であることをアンケートした結果，事業実施年度を通して知っていると答えた者がしめる割合は微増傾向であった．また，どの年度においても喫煙について「はい」と答えた者が糖尿病について「はい」と答えた者よりも多かった．よく噛むことが大切な働きをしていることを知っているか調査した結果，「はい」と答えた者は平成 26 年度では 51.9%であったのが平成 30 年度では 65.8%に増加した．

【歯科受診について】

かかりつけ歯科医を持っているかアンケートした結果，事業実施年度を通してかかりつけ歯科医を持つ学生の割合は増加傾向を示した．平成 26，27 年度は,かかりつけ歯科医を持つ学生の割合が、持たない学生の割合より低い値であった．しかしながら

28 年度以降はその数値が逆転し,その傾向が続いている.

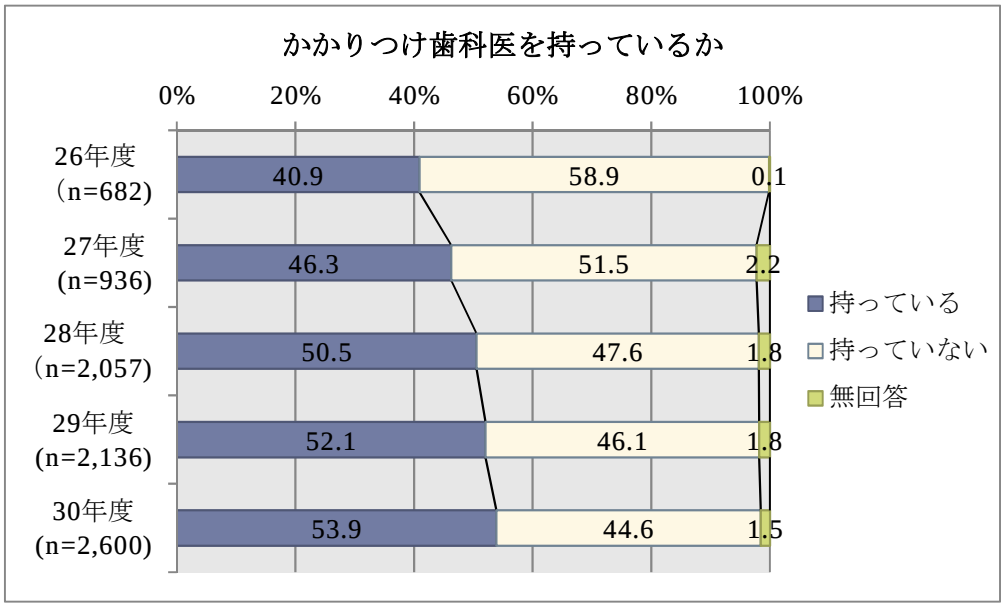


図７．かかりつけ歯科医を持っているか

２）３つの調査を総合した結果と考察

本事業を実施するにあたり，大学，短期大学および専修学校を対象に学校保健担当者の実態を調査した結果，73.9%の学校で保健担当者配置の認識有と回答され，実際の保健担当者の職種は医師（57.6%）と看護師（65.7%）が多かった．本事業の実施に対する保健担当者の反応が良かった学校が 82.1%であった．また，学校で歯科健診を実施している学校は 4.5%で，ほとんど定期健診が行われていないことが明らかとなった．

歯と口の健康サポーター養成研修会後にアンケートを行った結果，歯科口腔保健の普及啓発の重要性を感じた者は 98.6%であった．研修会前にすでに歯と口の健康づくりのための取り組みを実施した学校は 26.7%と少なかった．研修内容については「ある程度知っていた」,「知らないことが多かった」と回答した者はそれぞれ 36.5%,35.1%であった．本事業を進めるための媒体（クリアファイル）の活用方法は講義（59.5%）や一般定期健康診断（40.5%）の際に配布することが効果的だと回答した者が多かった．今後，歯科口腔保健に関する取り組みを学校で行うことについては 83.8%の者が可能と感じており，またその方法としては 62.9%の者が普及啓発の機会を増加することが可能であると回答した．本事業を実施した大学の学生に対して事業実施後に歯と口の健康について意識の変化が生じたかアンケート調査を行った結果，１日３回以上歯を磨く者や歯間部清掃用具を使用する者，口の中を頻繁にチェックする者が事業実施とともに増加した．また，喫煙や糖尿病が歯周病を進行させる要因であることや噛むことが全身に大切な働きをしていることを知っていると回答した者は経年的に微増した．さらにかかりつけ歯科医をもつ学生の割合は経年的に増加傾向を示した．

これらの結果は歯と口の健康についてや，全身疾患や生活習慣と歯科疾患との関連について様々な方法で啓発運動が行なわれている中で，本事業が学生に対して自身の歯や口の健康について興味を持つ機会を提供できたことも影響を及ぼしている可能性があると推察できる．

３．５年間のまとめ

本事業は，高校卒業後の若者たちへの歯科口腔保健の取り組みが充実していない現状への対策として，大阪府内 134 校の大学・短期大学・専修学校の保健担当者及び学生担当者を「歯と口の健康サポーター」として位置づけ，サポーターを通して歯科口腔保健の重要性についての啓発活動を実施することによって，歯科口腔保健の意識向上を図ることを目的として行った．本事業の開始にあたり実態調査を行った結果，多くの学校で保健担当者を配置しているものの 95.5%の学校で歯科健診が行われておらず，実際の取り組みがほとんど行われていないことが分かった．また，実際の保健担当者は医師および看護師がほとんどであり，今後，普及啓発を効率的に進めていくためには歯科医師および歯科衛生士が保健担当者とより連携を強くすることが必要であると思われる．

サポーター養成研修会後のアンケートによると、サポーター養成のための研修会や手引書の内容以外に、より具体的な口腔ケアの方法（う蝕や歯周疾患以外の口臭や舌苔，酸蝕歯）についても知りたいと要望されており，サポーターとしての保健担当者の知識や経験を踏まえて，内容についても変更する必要があると考えられる．実際の普及啓発に用いる媒体に対しては，セルフチェック項目が役立っており，活用もされているとの意見が挙げられているが，学生に対しては内容が難しい，イラストを増やしてほしいといった現行の媒体に対する意見だけでなく，スマホアプリの活用といった異なった媒体も要望されている．

モデル校を対象に本事業評価のためにアンケート調査を行った結果，学生の口腔への意識や関心は高まる傾向にあり，喫煙や糖尿病が歯周疾患の進行に関与することについても知っている学生が増加した．本事業はこのような学生の意識の変化や歯や口の健康管理の動機付けといった行動変容の一助になったのではないかと考える．今後，さらに若者への歯科口腔保健への取り組みを推進していくためには，本事業で行った内容を基にしてアンケート調査で要望された内容も考慮した新たな取組みを継続していくことが必要と考えられる．